

2026 年度気象防災講習会

『“自然災害による死者ゼロ”を目指して！（マイ・タイムライン）
～ “危険警報”を「住民の命を守る」真の情報にするために～』のご案内

1. 講習期日

2026年5月30日(土) 13時30分～16時30分

2. 講習対象者

本講習会は、以下のとおり「気象防災」に関心をお持ちの方を対象とします。

- ・自身や家族あるいは地域住民の防災に関心のある一般の方
- ・防災啓発活動等を行う気象予報士や防災士等の方
- ・自治体(市区町村)において防災対策を担当される方

【受講の条件】

本オンライン講習会は、オンラインミーティングツール「Zoom」システムを用いて行います。そのため、この「Zoom」システムを利用できることが必要です。また、質疑・応答の際に音声及び画像の共有ができることが必要です。

3. 講習テーマ

- ◆ **大改定となる新たな防災気象情報を、いかに“住民が自分の命を確実に守る”ことにつなげていくか**
- ◆ そのための重要なツールである「マイ・タイムライン」をどう変えていけばいいか

4. 講習目標

気象庁等が発表する防災気象情報が、令和8年の出水期から、情報名称も含めて大きく変わります。

本講習会では受講者に、新たな防災気象情報の中から、まずは、情報名称や構成からは見えないものの、住民にとって重要な変更となるポイントを理解していただきます。そして、住民が新たな防災気象情報にスムーズに対応して命を守るための、新たな“マイ・タイムライン”について学習していただきます。

5. 講習内容

次の3部構成とし、主には講義形式で実施します。

・ **第1部 新たな防災気象情報の重要ポイント**

新たな防災気象情報の全体像を概説したうえで、特に河川氾濫・浸水・土砂災害に関する情報について、その重要ポイントを詳細に解説します。

・ **第2部 河川氾濫・浸水・土砂災害に関する新たな情報と住民**

住民は、新たな防災気象情報をどのように受けとめることになるのか、特に河川氾濫・浸水・土砂災害に関する情報にターゲットを絞って、近年の豪雨災害事例に仮に当てはめてみて考察します。

・ 第3部 マイ・タイムライン

講師がこれまでの経験をもとに、また新たな防災気象情報をふまえて作成・改良した、“マイ・タイムライン”の形態と考え方を示します。そのうえで、警戒レベル毎に整理された新たな防災気象情報をもってしても、やはり、住民には、適切な避難行動判断をするために、的確な“マイ・タイムライン”とその準備過程が必要であることを解説し、考察していただきます。

6. 講習教材及び形式

講習教材は事前、およそ一週間前にはメール及び印刷物での送付を行います。

講義は講師による講話が中心ですが、受講者からの質問や意見を受ける時間を設けます。なお、講習会前までに講習内容に関連する質問を受け付け、講習当日にご質問に答えるよう努めます。また、講習後も一定期間内質問を受けます。頂いた質問に答えるよう努め、受講生全体に提供します。ただし、全体に答えることができない場合もあることも、承知おきください。

7. 講師

講師は、元気象庁松江地方気象台長の楠木英典氏です。

楠木氏は、現在、国土交通大臣より委嘱された「気象防災アドバイザー」として、市町村への防災アドバイザー業務や市民への防災啓発講演等に活動中です。

気象庁在職時代に、2004年兵庫県豊岡市における大水害の際には、所長として勤務していた豊岡測候所が大浸水となり、やむなく業務停止のうえ全職員の避難を決断した経験や、2011年紀伊半島豪雨の際には、気象庁支援チームの責任者として、大災害となった奈良県十津川村の災対本部を現場で支援した経験など、災害現場で多くの防災対応を経験されています。

資格:気象予報士、防災士

8. 募集定員

50名(先着順)

9. 受講料(教材を含む)

4,510円(4,100円+消費税)

10. 申込み方法

「受講申込書」に必要事項をご記入の上、下記の申込先へ電子メールでお申し込みください。

受講の申込みは先着順です。

メールにより受講の受付け後、受講料の振込先をご連絡しますので、受講料を指定の銀行口座にお振り込みください。

また、請求書・受領書等を必要とされる場合は申込書備考欄に名義と必要書類をお知らせください。

なお、一旦納入された受講料の返金には応じかねますのでご承知置き願います。

宛先

(一財)気象業務支援センター「講習会」担当 宛

E-mail: methiroba@jmbsc.or.jp